

吃音の症状



わわわんちゃんだー

くるま
こ---われちゃった



..おそとに
.....あそびに
いこう!



おこさんが
どもっていると
感じたら

対応方法を変えても様子が変わらない
吃音が始まってから1年以上経っている
どんどん悪くなる
心配で仕方がない
などがあれば専門家へ相談しましょう



文責：原 由紀
絵：井上 史子

吃音とは

お子さんは、一生懸命お話しをする時、なめらかにことばが出てこなかったり、ことばのリズムがうまくいかなることがあります。

「ぼぼぼぼく」のような繰り返す話し方や、

「ぼ-----くはね」と伸ばす話し方、

「……ぼく！」

と言葉のはじめがなかなか出てこない話し方などがみられます。

これらのことばの状態が**吃音**と呼ばれています。



ご心配な場合は
言語聴覚士が
ご相談にのります

何が原因？

吃音の原因の多くはお子さんの元々もっている体質に関係するといわれています。

親御さんの育て方や園での対応が原因ではありません。

ことばが急に発達する2～6歳ごろに、20人に1人くらいの割合で起こります。

お子さんによっては、環境の変化や体調などにより、悪くなったり良くなったりする波があります。

多くのお子さんは、成長とともによくなっていくといわれていますが、悪化させずに、よくなっていくことを促すためにも、

適切な対応をとることが大切です。



対応方法は？

ことばの状態に関わらずおしゃべりが大好きなお子さんになってもらうことを目指しましょう

つかえてもさえぎらずに最後まで聞きましょう

聞き終わったら「～なのね」と、話の内容をくり返してあげることで、最後まで聞いてもらった満足感と、伝わったという安心感がもてます。

ゆっくりお子さんの話を聞く時間をもちましょう

兄弟姉妹であらそって話したり、焦っている時はつかえやすくなります。ゆっくり1対1でお話ができる時間を作りましょう。

質問の数を減らしましょう

お子さんは、大人と同じように上手に表現することが難しいため、説明を求めるとつかえやすくなる場合があります

話し方のアドバイスはしないようにしましょう

「ゆっくり」、「深呼吸して」、「落ち着いて」と言っても理解することが難しいので、大人がモデルとなるようにゆっくり話してあげましょう。

**得意なことを見つけて、
たくさんほめてあげましょう。
自信を持って生活できるように。**